

5.救命救急関連

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度			2020(令和 2)年度			2021(令和 3)年度		
	実数	母数	割合	実数	母数	割合	実数	母数	割合
救急車搬送件数	5,920			5,189			6,523		
救急来院患者総数	22,789			19,047			21,666		
内) 救急外来患者数(救急外来で帰宅した患者)	17,704			14,394			16,805		
内) 救急入院患者数-割合	5,085	22,789	22.3%	4,653	19,047	24.4%	4,861	21,666	22.4%
院外心停止患者数	563			476			460		
重篤*1 患者数	1,207			1,011			1,034		
救急救命士 病院実習受入数	74			14			72		

解説文

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)の蔓延で言うと第 4 波(2021 年 4 月～5 月)、第 5 波(同 7 月～9 月)および第 6 波(2022 年 1 月以降)にあたります。

当院の救急車搬送数は、コロナ禍が始まってから減少していましたが、3 年ぶりに 2018 年度の水準(6,423 台/年)に戻すのみならず上回り、過去最高の台数を記録しました。

このデータには、重症 COVID-19 診療に力を入れながらも、非 COVID 診療を平時の水準に戻していこうとする当院の姿勢が現れています。

ただ、2020 年度以降、COVID-19 蔓延時には、当院の救急部門はとくに重症の COVID-19 患者さんの診療に注力しています。

大きな波のときには集中治療室やハイケア治療室などの救急病床を全て COVID-19 用病床にあてざるを得ない時期がありました。この時期は一般の重症患者さんの受け入れはやはり減少せざるを得ませんでした。

かように 2021 年度も COVID-19 蔓延による医療逼迫の影響は続きましたが、今後はワクチン接種や感染の広がりによる集団免疫の獲得、コロナウイルス自体の弱毒化(重症化率の減少)が期待され、状況は改善することが期待されます。

当院としては、できるだけ早期に平時の医療に戻し、さらなる地域救急医療への貢献をしたいと考えています。

RRS 月毎発生件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2019(平成 31/令和元)年度	12	16	16	15	15	17	18	21	21	13	18	11	193
2020(令和 2)年度	15	21	14	19	15	11	14	14	15	9	10	11	168
2021(令和 3)年度	13	13	15	10	10	3	6	13	9	15	16	13	138

解説文

RRS(Rapid Response System)は、院内の急変対応システムです。

院内で重症患者様が発生した場合に救急医と救命センター看護師を中心として構成される MET(Medical Emergency Team)がコールされ、直ちに出動するシステムです。当院では、2010 年に全国に先駆けて開始し、発展させてきました。

院内どこでも重症患者が発生すれば、医療チームとして駆け付け、診療にあたります。

RRS の件数は 2019 年度まで右肩上がりに増加し、年間 200 件近くに達しましたが、2020 年度に初めて減少し、2021 年度は更に減少しました。

減少の原因は、

- ① 患者さんが重症化する前に察知するシステムも同時に発展させていること。
- ② 加えて、COVID-19 の第 5 波が何らかの影響を及ぼしたこと。

と考えています。

②の根拠は、年間減少数の 30 が、7 月から 10 月(COVID-19 の第 5 波)の 4 か月間の減少数 30 と一致することです。この時期、重症 COVID-19 患者さんの数が過去最高を記録し、当院でも救急病棟が重症 COVID-19 の患者さんで占められていました。その影響で院内の COVID-19 以外の重症患者さんの数が減少し、RRS 起動数が減少したのではないかと推測しました。

RRS 起動が減少しても、予期せぬ重症化を来した患者さんの数は増加しておらず、RRS は適正に起動されていることが確認されています。

これからも安全な病院を維持するため、このシステムを継続して参ります。